

研究論文

教職課程履修学生の生徒指導観の形成の在り方についての一考察

－現職教員の語りによる生徒指導観の変容－

谷口 雄一*

One Consideration about the Way of the Formation of the View on Student Instruction
of the Teacher-training Course Study Student

- Transformation of the View on Student Instruction by the Talk of the Incumbent Teacher -

Yuichi TANIGUCHI

本研究は、教職課程を履修する学生の生徒指導観の形成の在り方について検討することを目的としたものである。

『生徒指導提要』に「生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことです」⁽¹⁾とあるように、生徒指導は多面的で多角的な教育活動であると言える。しかし、校則を守らせることに代表されるように、個性の伸長を図ることとは対極の画一的な指導と捉えている学生が少なからず存在している。そこで、教職科目「教職実践演習」の中で現職の生徒指導主事の語りによって学生に出会わせることで、生徒指導観の変容を図った。

本研究の結果、現職教員の語りによって学生の生徒指導観の変容に寄与していることが認められた。同時に、既習の教職科目「生徒指導論」等においては、履修する学生が多面的・多角的な生徒指導観を形成することができていなかったという課題が浮き彫りになった。

*摂南大学

1. はじめに

(1) 近年の生徒指導をめぐる学校現場の状況

『中学校学習指導要領（平成29年告示）』において、生徒指導について、「生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連づけながら、生徒指導の充実を図ること」⁽²⁾と書かれている。そして、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』において、「すなわち、生徒指導は、全ての生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活が全ての生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになるようにすることを目指すものであり、単なる問題行動への対応という消極的な面だけにとどまるものではない」⁽³⁾と説明されている。つまり、生徒が有意義な学校生活を送る中で人格のよりよい発達が促進され、現在及び将来において自己実現がなされる、生徒にとって未来志向の教育活動であると言える。

しかし、「ブラック校則」という言葉で表現されるように、地毛を黒髪に強制的に染髪させるといった個人の尊厳を損なうものや、下着の色を指定しそのチェックを行うというハラスメント行為が行われる等、本来の生徒指導の趣旨とは乖離した生徒の人格が尊重されていない活動が行われている実態も認められている。

また、いじめや不登校、暴力、児童虐待、ネット犯罪、性非行、薬物乱用、自殺など、生徒指導に関わる児童生徒の問題行動は多様化し、深刻化しつつある。これに伴い、教員を取り巻く状況は、ますます困難なものになっている。

協働的生徒指導体制の構築や教員のストレスとメンタルサポートについて研究している新井肇は、生徒指導に関わってバーンアウトしていく教員について、「どうやっても指導の通じない子どもに直面したり、保護者から過大な要求を突き付けられて対応に行き詰まると、苛立ちや欲求不満が昂じて無力感にさいなまれるようになります。やがて、極度の疲れや感情の涸渇、もううんざりだという気持ちから働く意欲が失われ、何もしたくなるという事態に陥ることがあります」⁽⁴⁾と述べている。

文部科学省がまとめた精神疾患による病気休職者の推移を見ても、過去5年間で毎年約5000人の教員が休職している⁽⁵⁾。また、精神疾患を理由とする離職も年々増加しており、2018年度には計817名の教員が離職している⁽⁶⁾。生徒指導に関する教員を取り巻く状況がますます困難なものになっている状況がみてとれる。

(2) 教職を志望する学生の生徒指導観の状況

心理臨床学を専門とする西嶋雅樹は、教職課程を履修する学生が生徒指導についてどのような印象を持っているのか質問紙調査を実施している。

西嶋は、統計的検定を実施した結果、生徒指導について「でしゃばりな、緊張した、情熱的な、親しみにくい」や「かたい、たくましい、自信のある、意志が強い、意欲的な」といった印象が評定されたと報告している。そして、「生徒指導に関する印象を構成したのは、熱血的で迫ってくるような、ともすれば押しつけがましい姿勢が示唆される形容詞・形容動詞の一群であった」と述べ、「教員から児童生徒に接近することにより教員が主体となって行われる生徒指導」と考察している⁽⁷⁾。ここから、教職を志望する学生がネガティ

ブな生徒指導観を有していることが伺える。

本研究では、このような状況に鑑み、教職課程を履修する学生が有している「でしゃばりな、緊張した、情熱的な、親しみにくい」等といった旧態依然なネガティブな生徒指導観を、生徒指導という教育活動が持つ「生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができる」といったポジティブなものへと変容させることを試みる。

考察の手順としては、まず、「教職実践演習」の中で筆者が実施した現職の生徒指導主事の語りに学生が会う授業の内容について整理する。次に、授業によって学生の生徒指導観がどのように変容したのかを学生の記述をもとに分析する。そして、分析結果をもとに、教職課程を履修する学生の生徒指導観の形成の在り方について考察していく。

2. 教職科目「教職実践演習」と生徒指導に関わる授業の概要

ここでは、本学の教職科目「教職実践演習」の全体像についてまずは概観していこう。そして、生徒指導に関わる授業である「生徒指導・進路指導（中学校での実地学習）①」について瞥見する。

表1 「教職実践演習」のシラバス

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	全体ガイダンス	・本授業の目的、内容や方法についての確認。 ・受講者各自の教育自習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。
	2	いじめの現状	問題行動の中から、特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さなどを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。
	3	いじめ問題への取組	日常の些細な出来事がどのようにして「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。
	4	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることを忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと考えたことをきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育について改めて考えてみたい。
	5	学校の中のマイノリティ： 外国にルーツを持つ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い、多くの外国人の子どもたちは日本の学校に通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツを持つ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義およびディスカッションを通して考えていく。
	6	学校の危機管理①： 学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。
	7	学校の危機管理②： 災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全委員の資質・能力を高める。
	8	教員の体罰はなぜなくなるのか？	教員の体罰の実態や体罰防止の現状などについて学ぶとともに、体罰の刃池にある指導観、子ども観について考える。
	9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか？	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応・保護者への対応に応用する。
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。
	12	生徒指導・進路指導 (中学校での実地学習) ①	地元市教委との連携協力のもと、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナ対策のため、VTRを視聴し、学修を進める。
	13	生徒指導・進路指導 (中学校での実地学習) ②	地元市教委との連携協力のもと、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナ対策のため、VTRを視聴し、学修を進める。
	14	専攻科目における実践上の課題①	専門科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。
	15	専攻科目における実践上の課題②	専門科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。

(1) 2020年度「教職実践演習」の授業計画について

本授業「教職実践演習」は、教育実習を終えた教職課程を履修する学生が、教育実習を通して出会った問題点を明確化しながら、今後の自らの実践課題についてグループワーク等を通して再認識し、教員としての適正や実践的な力量について確認することを目的としている。そのために、中学校や高等学校における教育実習で学んだことをもとに、教職課程を担当する大学教員や現職教員、元教員、教育委員会の指導主事等と研究交流を行い、生徒指導や進路指導、授業実践等を行うことができるような内容となっている(表1)。

(2) 現職の生徒指導主事の語りに学生が会う授業

「生徒指導・進路指導(中学校での実地学習)①」について

本学では、2013年度から地元市教育委員会との連携協力のもと、大学の近隣にある市立中学校において実地学習(フィールドワーク)を行ってきている。

昨年2019年度には学生を5つのグループに分け、各グループに大学教員(教職課程担当)1名が同行して中学校を訪問し、授業参観や生徒指導・進路指導等についての講話・協議等を実施している。筆者が同行したA中学校での実地学習では、学生は次のように生徒指導に関わって教員として大切にしたいことを学んだようである。

- ・靴箱に自分の靴を揃えて入れるという話を聞いて、小さな事でも生徒に意識させることは、勉強だけに限らず日常生活でも大切なことだと思うので、大事だなと感じた。
- ・生徒の些細な変化にも気づくアンテナを持ち、チームで動くことの大切さを学んだ。
- ・生徒指導の観点から、現在起きている、又は、増えている問題、生徒指導を行う上で、「アンテナ感度」と「チームで動く」ことの大切さを学んだ。
- ・「チームで学校は動いている」ということは、小・中・高校関係なく大事。
- ・道徳教育で、靴をきれいに揃えて入れるように指導している等、細かい所まで気をつけられるようにして、社会人になっても恥ずかしい思いをしないように生徒指導に力を入れている。
- ・生徒を見るアンテナ感度を高めること。チームとして学校内外で連携すること。
- ・SNSのいじめについて、写真を投稿されたり、サイトに勝手に登録されたり、塗装外のトラブルもあることを学ぶことができた。
- ・SNSの普及によって生徒の関係は見えにくいものになっているが、だからこそ、生徒を見る目を養うことが大切だと思った。
- ・昔と比べて増えているものとして、いじめや不登校は想像がつくが、虐待は想像がつかなかった。学校の中だけで起こることだけでなく、生徒を取り巻く環境も十分に支えなければならぬし、虐待も放っておいて良い問題ではないと思った。

本年度も当初は例年と同様、連携している近隣の市立中学校を訪問し、授業参観や生徒指導・進路指導等についての講話・協議等を実施する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、実地学習を断念せざるを得なくなってしまった。

このため、本年度は、昨年度A中学校を訪問した際に筆者が撮影した生徒指導主事による講話とその後の学生との協議の動画をもとに、グループや全体での協議を行うことで、生徒指導についての学修を深めていくという形で授業を行うこととなった。

3. 現職の生徒指導主事の語りによって学生の生徒指導観の変容を図る授業の実践

～2020年度実施「生徒指導・進路指導（中学校での実地学習）①」～

ここでは、本年度実施した「生徒指導・進路指導（中学校でも実地学習）①」の授業について見ていく。なお、本年度は前述のように実地学習を断念したため、学生には「生徒指導の実際」というテーマ名で授業を行った。

本授業の概要は、図1に示した通りである。1.「生徒指導」って何だろう？と2.「生徒

0. 本日のアウトライン

1. 「生徒指導」って何だろう？
 - (1) 「本質的な問い」に取り組み
 - (2) 意見を交流しよう
 - (3) 全体でも交流しよう
2. 「生徒指導」についておさらいしよう
3. 現場の先生に学ぶ～「生徒指導」で大切なこと～
4. 再び考える～「生徒指導」って何だろう？～
 - (1) 「本質的な問い」に取り組み
 - (2) 本学習を自己評価しよう
 - (3) 意見を交流しよう
 - (4) 全体でも交流しよう

SETSUNAN UNIVERSITY

図1 授業「生徒指導の実際」の概要

指導」についておさらいしよう、3.現場の先生に学ぶ～「生徒指導」で大切なこと～、4.再び考える～「生徒指導」って何だろう？～の4つで構成されている。これら4つのセッションの中で中心的な役割を担うのが、現職の生徒指導主事の語りによって学生が会う場となる3.現場の先生に学ぶ～「生徒指導」で大切なこと～である。

学籍番号() 名前() 講義名: 教職実践演習(中・高)

12/11 「生徒指導」の実際

1/8 「キャリア教育」の実際

【学習前】「生徒指導」という言葉を使って、文を3つ作ってみましょう。

【学習前】「キャリア教育」という言葉を使って、文を3つ作ってみましょう。

○学習前と学習後を比べて、気付いたことや感じたこと、考えたこと等を書きましょう。

○学習前と学習後を比べて、気付いたことや感じたこと、考えたこと等を書きましょう。

【学習後】「生徒指導」という言葉を使って、文を3つ作ってみましょう。

【学習後】「キャリア教育」という言葉を使って、文を3つ作ってみましょう。

図2 本授業で使用したワークシート

(1) 「生徒指導」って何だろう

まず、「生徒指導とは何か」という本授業の本質に関わる問いを学生に投げかけた。そして、「生徒指導という言葉を使った文を3つ作る」といった課題に取り組みさせた。(図2)。

次に、作成した文をもとに、意見交流を行った。本来ならば5つのグループに分かれて、8名もしくは7名で行うが、今回は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、ソーシャルディスタンスを確保し、2名もしくは3名で意見交流を行った。

この後、意見を交流する中で気付いたことを全体で交流した。

これらのセッションを通して、学生の中に存在するネガティブな生徒指導観が表出されることとなったが、それらについては、後の章において詳説したい。

(2) 「生徒指導」についておさらいしよう

ここでは、『生徒指導提要』にある生徒指導の意義についての記述をもとに、生徒指導とは、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」⁽⁸⁾であることを再確認した。

なお、「おさらいしよう」としたのは、学生が既に教育実習を経験し、学校現場における生徒指導の実際を目の当たりにしていること、教職科目「生徒指導論」を受講し終わっている学生ばかりであることがその理由である。

(3) 現場の先生に学ぶ～「生徒指導」で大切なこと～

ここでは、まず、昨年度、近隣のA中学校を訪問した際に筆者が撮影した生徒指導主事による講話とその後の学生との協議の動画を視聴した。講話の内容は以下の通りである。

- 昔と比べて増えている生徒の問題行動
- 昔と比べて減っている生徒の問題行動
- 新たな形のいじめや生徒間のトラブル
- 生徒指導を進めていく上で大切なこと
 - アンテナ感度を高くする
 - チームで対応する
 - 「先生にだけに話す」にどう対応する
- あらためて、生徒指導とは何か
- 講話をもとにした協議

なお、生徒指導主事の方から一方的に話すのではなく、提供された話題をもとに、適宜ペアで意見交換する等をしながら講話は展開されている。

本授業では、動画を視聴した後、「「生徒指導」って何だろう」のセッションと同様に、2名もしくは3名で意見交流し、全体交流も行った。

(4) 再び考える～「生徒指導」って何だろう？～

「「生徒指導」って何だろう」のセッションと同様に、ワークシートにある「生徒指導という言葉を使った文を3つ作る」という課題に取り組みさせた(図2)。学生からどのような生徒指導観が表出されたのかについては、こちらについても、「生徒指導」って何だろうのものと同様、後の章において詳説することとする。

次に、本授業を通して生徒指導についての自身の考えにどのような変容があったのか、学修の成果は何か等を学生各々に自己評価させた。具体的な方法は、授業の初めに作った3つの文を先程作成したものと比較させ、その中で気が付いたことや感じたこと、考えたこと等をワークシートに記述していくという方法である(図2)。

そして、ワークシートに記述したものを手がかりにして、本授業を通じた生徒指導観の変容や学んだこと等について、ソーシャルディスタンスを確保しながら2名もしくは3名で意見交流を行った。

最後に、意見交流の中で出た意見等を全体で交流した。

4. 学生の生徒指導観の変容

ここでは、現職の生徒指導主事の語り出会う授業によって受講した学生の生徒指導観を変容させることができたのかについて考察していく。

(1) 対象者

筆者が担当する教職科目「教職実践演習」を受講する4年生31名が対象者である。

(2) 分析の方法

今回、テキストマイニングを用いた。これは、文章を処理して、そのパターンを発見しようとする分析方法である⁽⁹⁾。分析したい記述文を言語解析の方法を用いて文章を数量化する。そして、その結果を可視化するためにネットワーク図にし、考察していく。

本研究では、フリーソフト「KH Coder」を使用し、次のような手順でネットワーク図等を作成している。

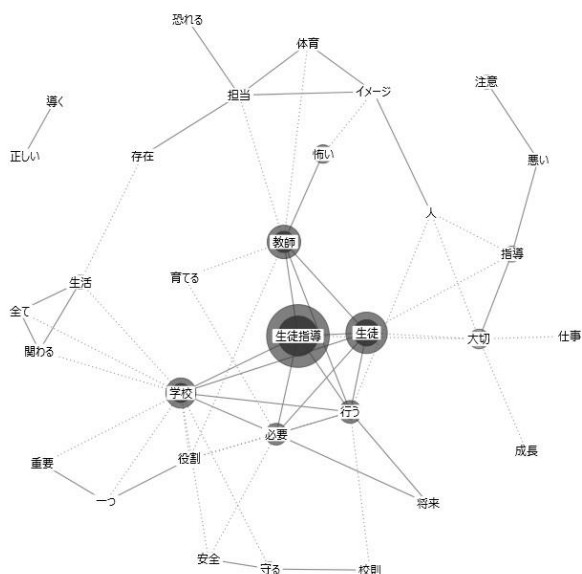


図3 学習前の学生の生徒指導観

① 受講生がOPPシートに記述したものを分析し、コード化を図る。

② 受講生が記述したものを最小の意味単位である単語に分解し、その出現頻度と同時に出現しやすい共起性を見る。

③ 可視化された図は、黒>灰>白の順で多くの単語とのつながりが高い。また、線の数が増えると、それぞれのまとまりの意味が解釈しやすくなる。

本研究では、ネットワーク上に見て取ることができる大きな単語のまとまりを取り出す。そして、受講生の生徒指導についての捉えについて考察していく。

表2 「学習前の学生の生徒指導観」ブロック別単語

ブロック	ブロック別単語
I	生徒指導、生徒、教師、学校、行う、必要、怖い、将来、育てる
II	大切、指導、注意、悪い、仕事、成長
III	イメージ、恐れる、担当、人、存在、体育
IV	守る、安全、校則
V	重要、役割、一つ
VI	生活、関わる、全て
VII	正しい、導く

(3) 結果と考察

①学習前の学生の生徒指導観

【学習前】の「生徒指導」という言葉を使って、文を3つ作ってみましょう」という問いに対して学生が記述した文の中に出現する単語をネットワーク図にした(図3)。すると、7つのブロックが出現した。

表2は各ブロックの中で出現頻度の

高い単語順に書き出したものである。

「導く」等のように、教員が主体となって行われる生徒指導に関わる行動と認められる単語については下線を、そして、そこから導出される「怖い」等のような感情に関わると認められる単語については二重下線を、それぞれ引いてみた。

まず、「育てる」や「指導」、「注意」、「導く」等の単語が認められる。これらの存在から、学生が生徒指導を教員が主体として行う教育活動であると捉えていることを表していると言えるだろう。また、ブロック I と II、VII というように、3 つのブロックに渡って教員

が主体となって行われる生徒指導に関わる行動と認められる単語が存在している。

そして、「怖い」や「恐れる」といった単語の存在から、生徒指導に対するネガティブな感情を持っていることが認められる。

ブロック III には「体育」という単語がある。これは、「生徒指導の教師は体育のいっかい教師が多い」といった記述等に見られたもので、学生の中に、旧態依然とした生徒指導観が存在することを示すものだと考えられる。

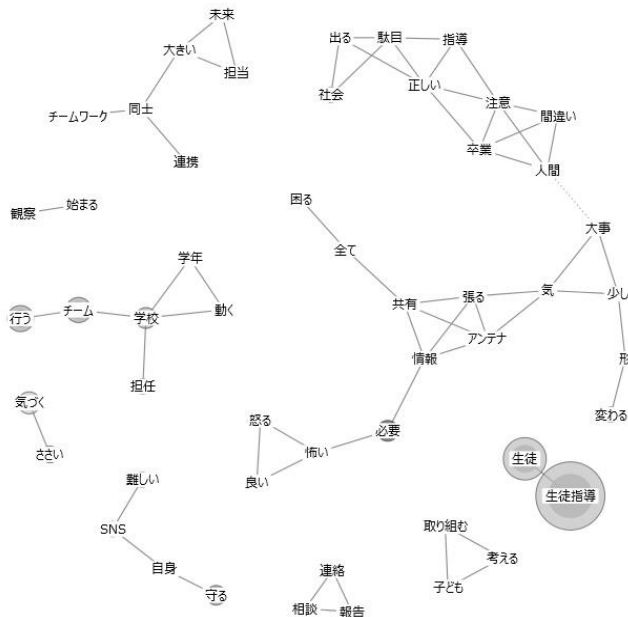


図 4 学習後の学生の生徒指導観

②学習後の学生の生徒指導観

学習前のもと同様に、学生が記述した文の中に出現する単語をネットワーク図にしたところ、9つのブロックが出現した(図4)。

そして、それぞれのブロックの中で出現頻度の高い単語を順番に書き出し、表2と同様に、教員が主体となって行われる生徒指導に関わる行動と認められる単語については下線を、そして、そこから導出される感情に関わると認められる単語については二重下線をそれぞれ引いてみたものを表3に示している。

1) 生徒指導に関するネガティブな認知や感情の存在

学習前と同様、学習後についても、「怒る」や「指導」、「注意」等の教員が主体となって行われる生徒指導に関わる単語が認められる。しかし、学習前は3つのブロックに渡って出現していたが、ブロック I と II の2つへと減少している。

次に、生徒指導に対するネガティブな感情に関わる単語については、学習前の2つから「怖い」の1つへと減少している。

これらの学生が持つ生徒指導に対するネガティブな認知や感情については、本授業の「「生徒指導」って何だろう？」の中で小グループや全体で意見交流した際に、自身の児童

生徒期の経験として、多くの学生から語られていた。ネガティブな感情が存在する状態では、認知をポジティブなものに変容させていくことは非常に困難である。

2) 新たな生徒指導観の獲得

学習前と学習後と比較すると、明らかな変容が見られる。それは、学習前には認められなかった新たな生徒指導観である。

まず、ブロックⅠとⅢ、Ⅶに注目する。すると、「共有」や「情報」、「チームワーク」や「連携」、「チーム」といった単語が目に入ってくるのではないだろうか。これらは、「現場の先生に学ぶ～「生徒指導」で大切なこと～」の箇所で見職の生徒指導主事が語っている「チームで対応する」ということに関わるものと考えられる。

次に、ブロックⅠとⅤ、Ⅵに注目しよう。すると、「アンテナ」や「張る」、「変化」、「気づく」、「ささい」、「観察」等の単語が並んでいる。これらは、「アンテナ感度を高くする」という語りに関わるものと言える。文字通り、学生が見職の生徒指導主事の語りに出会い、「アンテナを張って、些細な変化に気づき、観察することが生徒指導の始まりである」といった生徒指導観を獲得したことを表していると言えるだろう。

3) 生徒指導に関する認知の促進

表3を見ると、ブロックⅣに「SNS」という単語が見られる。これは、学習前には見られなかったものである。それでは、これは学生が本授業を通して新たに獲得した認知であると言えるのであろうか。そうではない。SNSについてのトラブルが生徒指導において現代的な課題であることは、教職科目「生徒指導論」において既習の内容であり、学生は既に把握しているはずである。つまり、SNSについては、記述という形で表出されない程度の認知であったということが表2から推測されるのである。

本授業を受講した学生にとっては記述されない程度でしかなかった生徒指導におけるSNSの問題に関する認知が、見職の生徒指導主事の語りに出会うことで促進され、学習後に表出されたと考えられるのである。

5. おわりに

本研究では、教職課程を履修する学生が有している旧態依然なネガティブな生徒指導観を生徒指導という教育活動が持つ「生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができる」といったポジティブなものへと変容させることを試みた。

このために、今回は、学生を「見職の生徒指導主事の語り」に出会わせ、生徒指導観がどのように変容したのかを分析してきた。その結果、次の3点について指摘できると考えている。

1 点目は、新たな生徒指導観の獲得である。学校現場で生徒指導に取り組んでいる教員の生の声は、学生が最新の認知を獲得し、新しい生徒指導観を獲得していくための手立てとなるだろう。

2 点目は、生徒指導に関する認知の促進である。SNSに起因するトラブルが生徒指導上の問題となっていることは、学生は既習のことである。また、児童生徒期に実際にSNSを

巡るトラブルに巻き込まれた経験がある学生もいるであろう。しかし、表2から分かるように、学習前には、学生の認知は記述には現れない程度であったのである。

3点目は今後の課題である。本研究では、学生の中にある生徒指導に関するネガティブな認知や感情を幾分緩和することはできたと考えられるが、完全に変容させることは叶わなかった。このことについては、今後の課題とし、継続的に検討を重ねていきたい。

最後に、上述の課題は同時に、教職科目「生徒指導論」をはじめとする教職科目の課題であると本研究を通して筆者は捉えるに至った。本研究は、同授業等を履修した学生が、学修を通して多面的・多角的な生徒指導観を形成することができていなかったという課題をも浮き彫りにするものであると言えるだろう。このことについても、今後の課題とし、研究していきたいと考えている。

【註】

- (1) 文部科学省『生徒指導提要』教育出版、2011年、1頁。
- (2) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、2018年、25頁。
- (3) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房、2018年、98頁。
- (4) 新井肇『「教師を辞めようかな」と思ったら読む本』明治図書、2016年、33頁。
- (5) 文部科学省『平成30年度公立学校教職員の人事行政状況調査』2020年、
(https://www.mext.go.jp/content/20191224-mxt_zaimu-000003245_10102.pdf 2021.1.7)
- (6) 文部科学省『令和元年度学校教員統計調査（中間報告）』2020年、4-7頁。
(https://www.mext.go.jp/content/20201217-mxt_chousa01-000011646_1.pdf 2021.1.4)
- (7) 西嶋雅樹「教職課程の受講生における生徒指導と養育相談に対する印象の比較—特に英と指導に関する授業のための基礎資料として—」『教育臨床総合研究』第17号、2018年、39頁。
- (8) 前掲(1)、1頁。
- (9) テキストマイニングについては、以下の文献が詳しい。樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—第2版』ナカニシヤ出版、2020年。

※フリーソフトによる分析

KH Coder 3（最新版） 樋口耕一

<https://kncoder.net/>（最終閲覧：2021年1月15日）